

令和5年度 特色ある教育実践研究校 (生活科・総合的な学習の時間) 報告書 江波小学校

1 学校の課題

○令和5年度全国学力・学習状況調査は、国語科、算数科ともに、全国平均を上回っている。
○全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査の結果から、本校の児童は総合的な学習の時間に対して前向きに取り組んでいるが、身に付けた資質・能力を身近な生活に関わる学習で生かすことについては、児童の意識が低いことが分かった。

質問事項	本校	広島県	全国
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	77.8%	83.5%	81.9%
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	71.1%	74.8%	74.4%
総合的な学習の時間には、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	82.2%	77.7%	74.8%

2 研究主題

一人一人を大切にし、主体的に学びに向かう子どもの育成
～すべての児童に教育的配慮を行い、すべての児童が参加できる授業づくりを目指して～
3年次 生活科・総合的な学習の時間における、地域と共に学ぶコミュニティ・スクールとしての取組

3 取組内容

(1) 地域との関連

○教材開発

付けたい力を明確にし、全学年の系統性を意識して学習を進めていくために、生活科・総合的な学習の時間の構造図を作成する。その図を意識することで、学年ごとの系統をもたせ、発達段階ごとのねらいを明確にした取組を行うことを目指す。

また、継続して地域資源を活用できるようにするために、年間指導計画にゲストティーチャーや見学場所も記載する。

○学校運営協議会との連携

知りたい、聞いてみたい、見てみたいという児童の思いや願いを大切にするため、学校運営協議会委員の方と連携を図り、学習の場を設定する。また、地域の方から情報をいただくだけでなく、お返しできるよう、学習したことをまとめ、発表する場を設定する。

(2) 探究のプロセス

○事例を活用した単元づくり

単元を通して探究のプロセスを充実させるために、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」の冊子を活用する。学習過程ごとに事例が示されているので、それらを単元計画の中に位置付けるとともに、児童に付けたい力を明確にし、どの事例を活用すれば、探究的な活動になるか考えるなど、学習活動を工夫する。

○「主体的に学ぶこと」、「協働的に学ぶこと」のよさを実感できる授業づくり

多様で多量な情報を収集し、異なる視点や考えを基にして検討していくことで、事象への認識が深まり、互いのよさを実感できると考えるため、そのような協働学習を通して、自分の考えに自信をもち、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

(3) 資質・能力の活用、発揮

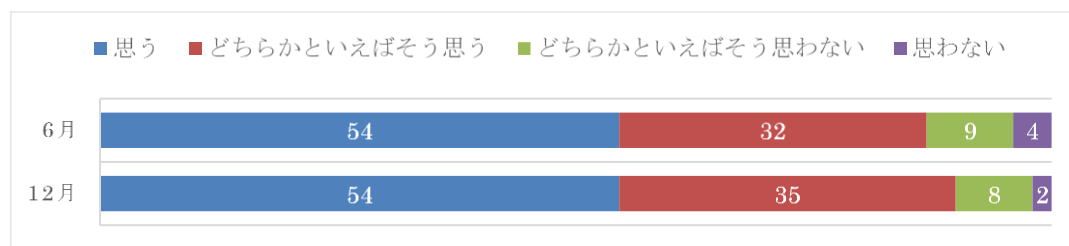
○各教科（特に国語科）との関連を明確化した取組

身に付けた資質・能力を、身近な生活に関わる学習で活用することが期待されていることから、各教科との関連を図ることが、生活科や総合的な学習の時間における探究的な学習を充実させることにつながると考えるため、国語科で学習したベン図等を用いてアンケート結果を分類することで、共通点や課題点を見いだすことができる場面を設定する。

4 検証結果

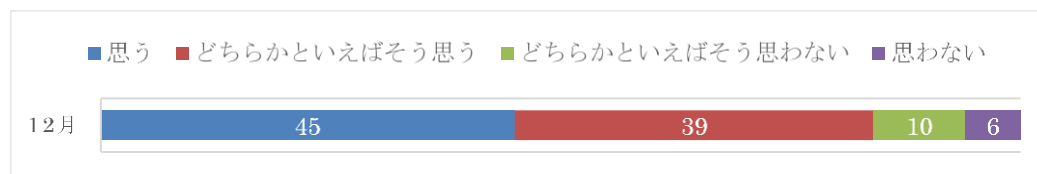
6月と12月に行った児童アンケートを比較し、結果を検証した。

① 「総合的な学習の時間」に積極的に取り組んでいますか。



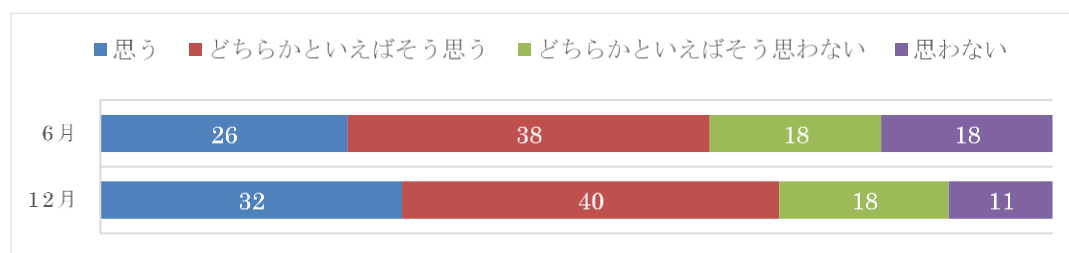
6月 86%
12月 89%

② ゲストティーチャーの話の聞いたり、見学に行ったりする活動に、自分から進んで取り組むことができましたか。



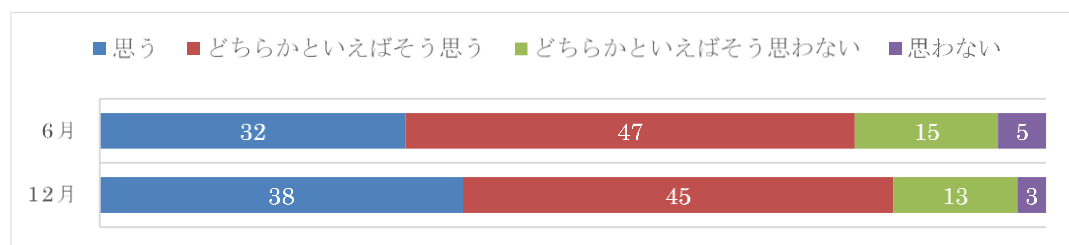
12月 84%

③ 江波の町で行われている行事に参加していますか。



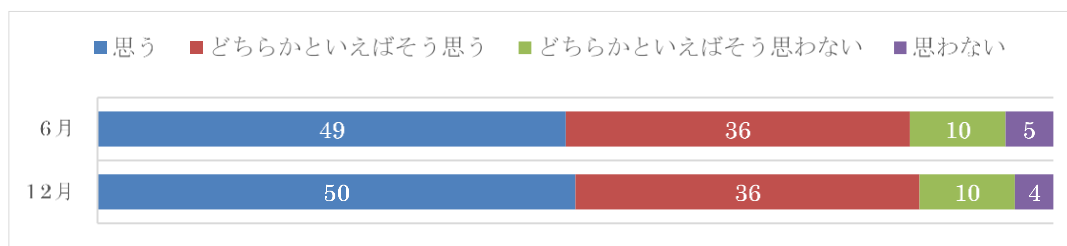
6月 64%
12月 72%

④ 「総合的な学習の時間」の学習では、自分で課題を見付けたり、決めたりしていますか。



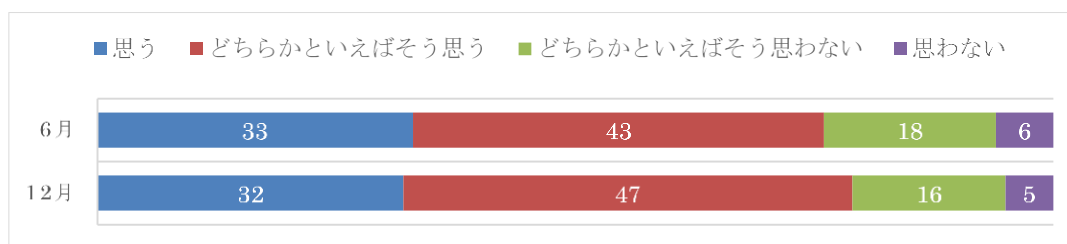
6月 79%
12月 83%

- ⑤ 「総合的な学習の時間」の授業では、友達にアドバイスをしたり、友達の意見を自分の考えに取り入れたりしていますか。



6月 85%
12月 86%

- ⑥ 「総合的な学習の時間」の授業では、他の教科で学んだことを生かしていますか。



6月 76%
12月 79%

5 研究成果

児童アンケートの結果より、総合的な学習の時間に対する児童の意識は高まっているといえる。指導計画について、児童の取組や願いを大切に、育成を目指す資質・能力と照らし合わせながら、適宜柔軟に見直しながら運用したことや、コミュニティ・スクールを活用し、地域教材に多く触れる機会をもったことにより、主体的に学習に取り組むことができたと考える。

(○：成果 ●：課題)

(1) 地域との関連について

○興味・関心に応じた学習活動

講師を招聘したり、見学に行ったりする活動を取り入れた単元計画を作成することができた。児童と関わりの深い人物、地域のことに詳しい方から話を聞いたりすることや、実際の場所に行き見学したりする活動を取り入れることで、児童の興味・関心に応じた学習活動を実現することができた。これまで気付かなかったことに気付いたり、考えもしなかったことに目を向けたりすることができ、考えを深めることができた。

○適切な打合せ

コミュニティ・スクールの取組を活用し学校運営協議会委員の方の協力を得て、期待する教育活動にふさわしい人材や施設等を紹介していただき、活用することができた。また、外部人材に対しては、授業のねらいを明確にし、育成を目指す資質・能力について共有するために、目的が伝わるよう適切な打合せを心掛けた。

○学習成果の発信

今年度は、外部との連携を一層円滑にするために、学習成果の発信の場を単元計画に入れた。参観日や、発表会を通して、保護者や地域の方に学習の成果を発表する場を設定し、連携や協力の成果を実感していただけるような取組を行った。

地域について知り、考えたことで、人、もの、行事等の素晴らしさを感じ、受け継いでいきたいという思いをもつことができたため、進んで地域の行事に参加する児童も増えた。地域の方と関わることの楽しさを感じたり、愛着をもち感謝したりする気持ちをもって生活できるようになったと感じる。

●計画から実施まで

地域教材の活用については、外部との連携を伴うため、実施までの計画や打合せ等の準備に余裕をもって取り掛かる必要があった。また、他教科の学習や行事などとの関連から、時間や場が限定されることもあり、伝える相手や内容、方法を児童自身が選択し、主体的な活動にすることが難しい場面があった。

(2) 探究のプロセスの充実

○事例の活用「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」

考える際に必要になる「分類する」、「関連付ける」等の思考を可視化するための思考ツールを活用した授業を行った。それらを活用することで、多様な情報をどのように処理するか、分析するかの助けになった。また、児童間で共有することもでき、協働的な学習、対話的な学習に結び付きやすく、一人で考えることが苦手な児童にとっても効果的だった。今後もツールを活用することが目的化しないよう考慮する。

●課題の設定

教師は意図的な働きかけをし、児童の考えとの「ずれ」等を感じさせる活動を取り入れた。しかし、その課題を解決したいという思いには個人差があるため、体験活動においても、学習対象との関わり方や出会わせ方を児童の実態に合わせて考慮し、課題意識を高める場の工夫や時間が重要であることが分かった。

(3) 資質・能力の活用、発揮

○各教科との関連

各教科等で身に付けた資質・能力を発揮できるような学習展開の工夫を行った。社会科の資料活用の方法を生かして情報を収集したり、アンケート結果をベン図にまとめたり、グループ学習を行う時に気を付けることを生かしたりするなど、各教科等で学んだことを総合的な学習の時間に生かすことができた。今後は、総合的な学習の時間に身に付けた資質・能力を各教科でも活用できるように、年間指導計画を作成していきたい。



もの名前をあつめて、名前を付ける活動
(国語科との関連)

《単元指導計画》

第1学年 生活科



第2学年 生活科



第3学年 総合的な学習の時間



第4学年 総合的な学習の時間



第5学年 総合的な学習の時間



第6学年 総合的な学習の時間

